

経営比較分析表（令和元年度決算）

鳥取県 鳥取市

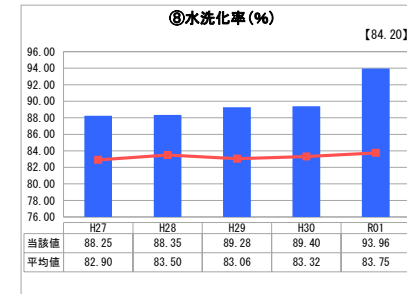
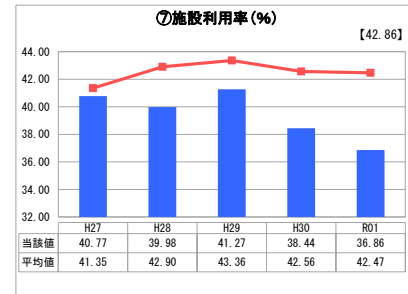
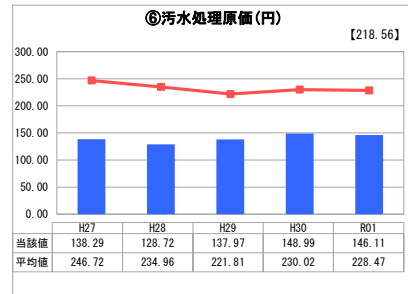
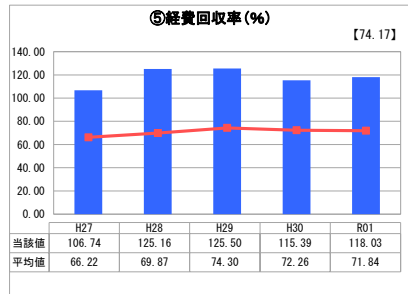
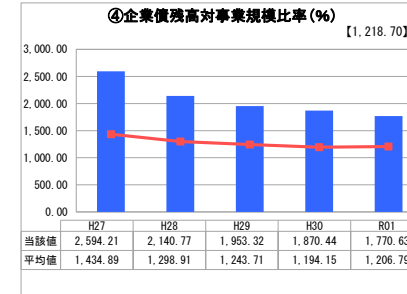
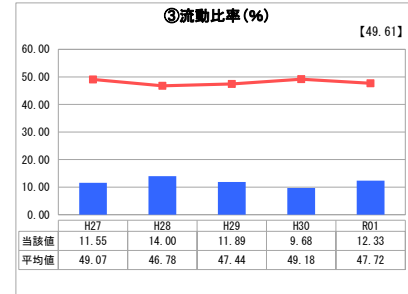
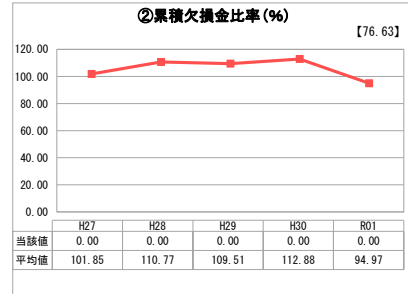
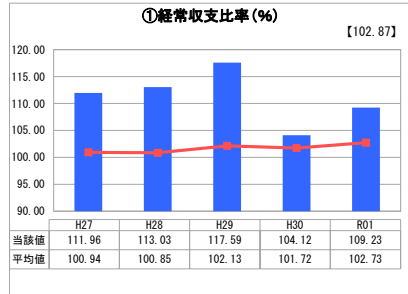
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	56.84	6.75	97.00	2,767

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
186,960	765.31	244.29
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,570	4.97	2,529.18

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は一般会計からの繰入金が増加したことに伴い増加した。また、② 累積欠損金も発生していないことから、両比率とも良好な値を示している。

③ 目安となる100%の水準を大きく下回っているものの、使用料収入や一般会計からの繰入等により支払い能力は確保されている。

④ 既存の企業債の償還に伴い、企業債残高対事業規模比率は低下した。今後も当比率は低下傾向が続く見込みである。

⑤ 経費回収率は、前年同様良好な水準であった。100%の水準を維持していることから、本事業における使用料は適正な水準と言える。

⑥ 汚水処理原価は、類似団体の平均値よりも安価であるものの、更なる経営健全化のためにもコスト削減の取組みが必要である。

⑦ 前年に対しても類似団体や全国の平均値と比較しても低い状況にある。これは、人口減少等の要因による有収水量の減少が要因と考えられる。今後は、ストックマネジメントの活用等による適切な施設管理に努める必要がある。

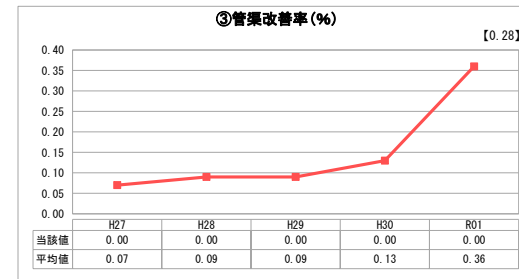
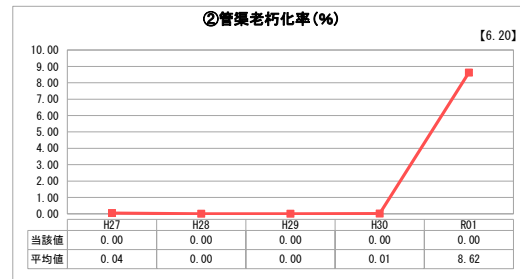
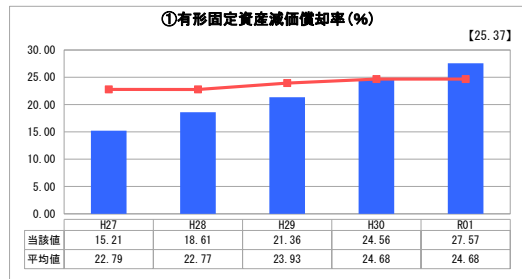
⑧ 水洗化率は、類似団体や全国の平均値より高い水準で推移しており、良好な値と言える。

2. 老朽化の状況について

① 減価償却累計率は上昇傾向にあるが、全国平均、類似団体平均と概ね同値程度である。

② 供用開始が平成8年度であり、法定耐用年数を超える管渠はない。

2. 老朽化の状況



全体総括

経常収支比率や経費回収率が100%を超える水準で推移しており、類似団体等の平均値と比較しても良好な値となっておりことから、本事業における経営の健全性は概ね確保されていると判断できる。

施設の状況については、現在のところ法定耐用年数を超える管渠はないものの、今後、地域の将来像を踏まえながら、ストックマネジメントの知見を活用した施設の統廃合やダウンサイジングによる効率的な管理が必要である。

こうした課題に対し、本市では「鳥取市下水道等事業経営戦略」を策定しており、この中に定めた各種目標の達成を通じて、経営の健全化や施設の効率的な管理や機能の維持に取組んでいる。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。